

記事を読んで、問いに答えましょう。

解答例

2021年9月5日朝刊

深刻な不漁が続くサンマの水揚げに、わずかながら回復の兆しが見えてきた。例年より約1カ月遅れの初水揚げとなった8月後半に入り、漁獲がじわりと増加。不振ではあるものの、序盤の漁獲ペースは過去最悪だった昨年を上回っている。

今年のサンマ漁は、7月上旬に解禁後、水揚げゼロが続いていたが、8月19日によやく北海道で初水揚げ。下旬には大型船の操業も始まり、一時的に漁獲が向上した。漁業情報サービスセンターによると、8月の漁獲量は約850トン(速報値)と近年でも

低水準ではあるものの、前年の約5倍となっている。水揚げの増加に伴い、東京・豊洲市場(江東区)の取引価格も下落。入荷がまとまった8月30日の卸値は、主力の1匹130g型が1kg当たり1200円前後と前年同時期より約2割安。小ぶりサイズが中心で、都内では1匹約300円で販売したスーパーも。近年は同1000円の特売が難しくなっているが、水揚げが安定的に続けば「もう少し手頃な値

段になるのでは」(小売店関係者)とみる向きも多い。ただ、不漁はまだ続きそう。水産庁によると、日本近海へのサンマ来遊量は、漁獲量が過去最低だった昨年は上回るものの、過去2番目に少ない2019年は下回る見込み。海流の変化などが要因といい、近年の傾向通り、遠い沖合を中心に漁場が形成されるとみられている。

サンマは今後、北海道に加えて岩手県や宮城県などでも水揚げが本格化する見通し。豊洲市場の鮮魚専門卸店「本橋」の小島浩資店長は「これからサンマの脂乗りが良くなると思う。塩焼きが定番だが、刺し身ももうまい」とPR。秋の漁本番での巻き返しに期待を込める。

サンマ水揚げ回復の兆し 秋本番へ巻き返し期待



不漁続きだが水揚げ回復の兆しも見えてきたサンマ＝8月31日、東京都江東区の豊洲市場

- ①見出しの「兆し」は何と読みますか。ひらがなで書きましょう。(**きざし**)
- ②記事のサンマの写真はどこで撮影したものですか。(**東京都江東区の豊洲市場**)
- ③サンマにはどんな食べ方がありますか。
(**(例)塩焼き、刺し身など**)
- ④今年の「サンマの水揚げ」は昨年に比べてどうですか。
(**(例)近年でも低水準ではあるものの、前年の5倍となっている。不振ではあるものの、序盤の漁獲ペースは過去最悪だった昨年を上回っている。など**)
- ⑤近年、サンマの不漁が続いている要因は何ですか。
(**(例)海流の変化などが要因(で、漁場は遠い沖合を中心に形成されるとみられているため)。**)

年 組 名前